

# 江ノ浦川水系河川整備基本方針

平成 1 4 年 2 月

長 崎 県

# 江ノ浦川水系河川整備基本方針

## 目 次

1 . 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	1
( 1 ) 江ノ浦川流域の概要 -----	1
( 2 ) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	4
1 ) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 -----	4
2 ) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに 河川環境の整備と保全に関する事項 -----	4
3 ) 河川の維持管理に関する事項 -----	5
2 . 河川の整備の基本となるべき事項 -----	6
( 1 ) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 ---	6
( 2 ) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 -----	6
( 3 ) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に 関する事項 -----	7
( 4 ) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に 関する事項 -----	7

< 参考図 >

江ノ浦川水系流域概要図

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 江ノ浦川流域の概要

江ノ浦川は長崎県南部の北高来郡飯盛町の中心部に位置し、その源を飯盛山（標高 294m）、八天岳（標高 297m）等の山々に発し、丘陵地を南西に流下したのち南へと流れを変え、平地部を流下し橘湾へ注ぐ幹川流路延長約 4.5 km、流域面積約 14.6km<sup>2</sup> の二級河川です。

江ノ浦川流域は飯盛町の面積の大部分を占め、流域内人口は約 6,000 人で飯盛町の総人口（約 8,000 人）の約 7 割を占めています。また、流域内では農村活性化住環境整備事業として、ほ場整備等により非農用地を創出し、地域の宅地需要に対応しうるような用地の確保等が行われており、今後更なる人口増加が予想されます。

流域の気候は、年平均気温が 16 ~ 17 程度と比較的温暖です。年平均降水量は 1,800 mm 程度ですが、梅雨や台風の影響を受けるため 6 月、7 月の降水量が多くなっています。

流域の地形は大部分が山地や丘陵地で、山地部の傾斜を経て南方の下流域に平地が広がっています。この平地は大部分が江戸時代に干拓されたもので、現在、水田・宅地として利用され飯盛町の生活や産業の中心地となっています。

流域内の土地利用状況はその大部分が水田・畑として利用されているほか沿川の平地を中心に宅地として利用されています。また、流域内を幹線道路として重要な役割を果たしている国道 251 号が横断しており、その周辺には学校や町役場等の公共施設がみられます。

流域内の産業は第一次産業が基幹産業となっており、平野部の畑地で馬鈴薯やにんじんの根菜類の栽培が盛んに行なわれています。

江ノ浦川の治水・利水・自然環境および河川利用状況の概要は以下に示すとおりです。

## 治水の概要

江ノ浦川は、その沿川が平地であり、なおかつ河積が小さいため過去幾度となく洪水氾濫による浸水被害を被っています。なかでも、長崎市を中心に死者・行方不明者合わせて299名、被害総額3,150億円という甚大な被害をもたらした昭和57年7月23日の「長崎大水害」では、江ノ浦川流域においても、田畑の冠水や、家屋の浸水等の甚大な被害を被りました。この被害を受けて護岸等の河川管理施設については災害復旧工事を実施したものの、近年の人口流入により下流低平地で宅地化が進行した結果、近年では平成2年、平成5年、平成9年と相次いで家屋の浸水や田畑の冠水等の被害を受けています。特に河口付近の住宅地の住民は、豪雨時に不安な生活を余儀なくされています。

このような洪水被害が相次いでいることから、抜本的な治水対策が必要となっています。

## 利水の概要

江ノ浦川の河川水は、周辺の田畑約142haの農業用水として利用されています。なお、流域内には小規模な溜池は存在しますが、その他ダム等の貯留施設はありません。

江ノ浦川では県内で渇水被害が相次いだ平成6年に、他市町同様水不足に見舞われ一部農作物に被害が発生しましたが、他の渇水時には利水に大きな支障をきたすような渇水被害は発生していません。

## 自然環境および河川利用状況

江ノ浦川の上流域は、その大部分がシイ・カシ萌芽林やスギ・ヒノキの人工林に覆われています。萌芽林や人工林の間には果樹園が営まれ、主に柑橘類が栽培されています。

山間部ではセキレイ類やサギ類の野鳥やニホンザル、キツネ、タヌキなどの動物が生息しています。

河岸は護岸整備が施されており植生はあまり見られませんが、河床部は、瀬・淵が交互に形成され水際にはミゾソバやイヌビエなどの群落が多く見られます。魚介類ではオイカワ、ヨシノボリのほかモクズガニが見られます。

下流域は江戸時代に干拓された平地に宅地や田畑が広がり、生活の中心地として利用されています。植生はマコモやヨシなどのイネ科の植物により占められています。

河道内は護岸が整備されていることや、水門や堰による湛水の影響から植生はあまり見られませんが、河床に堆砂したところではアシ、ヨシなどが群落を形成しています。魚類では汽水魚のボラ、ハゼ類のほかオイカワ、フナ、ウナギなどが生息しています。鳥類ではサギ類、カモ類の野鳥が生息しています。

河川の利用については、中・下流部で川沿いの散策に利用されているほか国道より下流部ではウナギ採り等に利用されています。また、江ノ浦川の河川水は農業用水として利用されています。

水質に関しては、公共用水域の類型指定を受けていませんが、名切橋地点（河口から約 2.3km）において平成 11 年度に水質観測が行われており、その結果 BOD 値の平均値は約 1.3mg/l と環境基準値の A 類型相当（2 mg/l 以下）を満足しており良好なものとなっています。

## ( 2 ) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

長崎県では、長期総合計画の中で「地域を支え合う安全・安心な社会づくり」、  
「自然環境と人々が共生する社会づくり」を政策に掲げ、安全で快適な生活環境づくりをめざしています。

江ノ浦川の整備においても、これらの基本理念に基づき、関連地域の社会・経済の発展に係わる諸計画（飯盛町総合計画等）との調整を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図っていきます。

またその際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川の整備・保全に係る取り組みの促進・支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行っていきます。

### 1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

江ノ浦川は、想定氾濫区域内の状況等を考慮した上で、概ね 30 年に 1 度の確率の降雨により発生する規模の洪水を安全に流下させることのできる整備をめざします。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等に対しては、関係機関と連携し警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施します。さらに、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行う等、流域と一体となった取り組みを推進します。

### 2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用に関しては、地域住民や飯盛町等の関係機関との緊密な連携のもとに、合理的な水利用の促進等適正な水利用を図ることにより、流水の正常な機能の維持に努めます。

河川環境の整備と保全に関しては、オイカワやミゾソバなどの動植物の生息・生育環境の保全に努めるとともに地域住民の利用等を踏まえた河川空間の整備を図ります。

### 3 ) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から適切に行います。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水流量は、概ね30年に1度の確率の降雨により発生する規模の洪水とし、そのピーク流量は、基準地点名切橋において115 m<sup>3</sup>/sと設定し、これを河道に配分します。

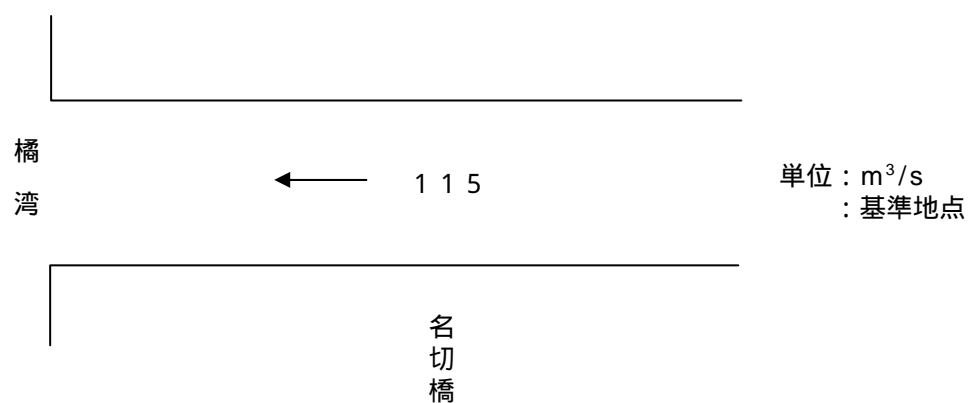
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位：m<sup>3</sup>/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
江ノ浦川	名切橋	115		115

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

江ノ浦川における計画高水流量は、基準地点名切橋において115 m<sup>3</sup>/sとします。



江ノ浦川計画流量配分図



( 3 ) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川 幅 (m)	摘 要
江ノ浦川	名切橋	2.3	+4.94	25	基準地点

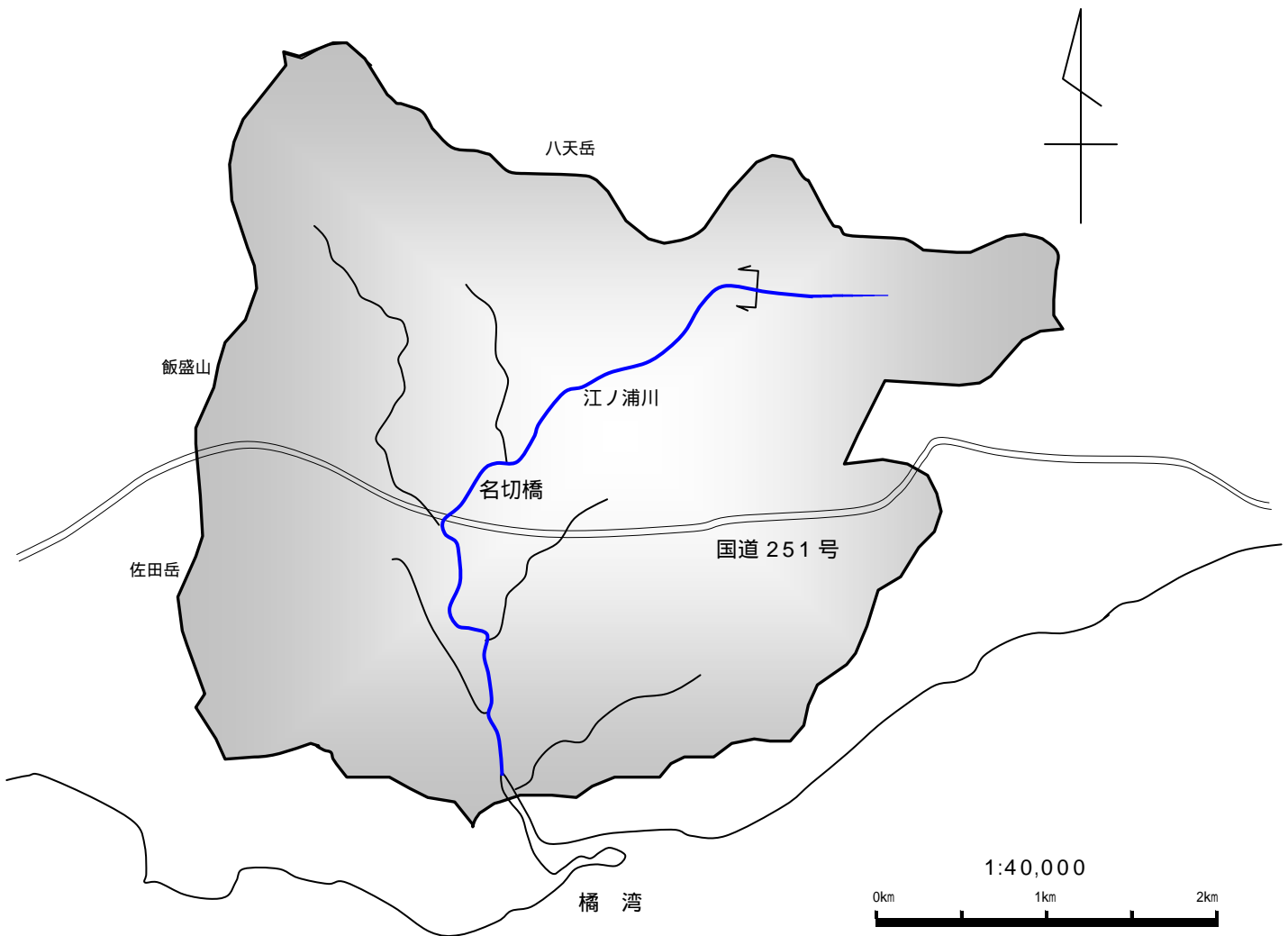
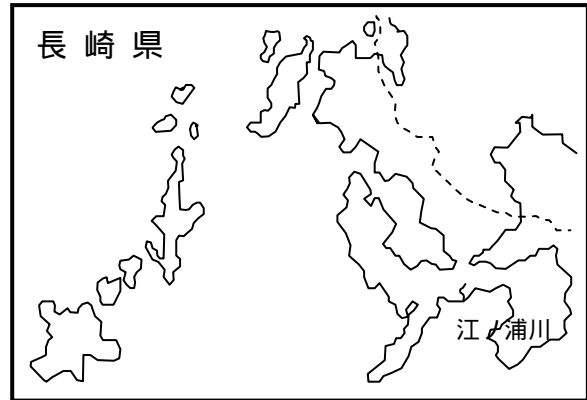
(注)T.P. : 東京湾中等潮位

( 4 ) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

江ノ浦川における水利用としては、農業用水として約142haの田畑に対する慣行水利があります。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、今後、流量データの蓄積、水利用の実態等に関する調査検討を行います。

凡 例	
	基準地点
	流域界
	二級河川区間



江ノ浦川水系流域概要図